

研修だより

矢島小学校

1

04.4.21

「個に応じた指導」って何？

通信を発行することにしました。矢島小学校の研修に役立てば嬉しいです。

1号につき、一つのテーマで書いていきます。

できるだけ分かりやすく、読みやすい文章にしたいと思っていますので、よろしく御贖員に。

では、早速本題に入ります。

個に応じた指導について、小学校学習指導要領総則には、次のように記されています。

(5) 各教科等の指導に当たっては、児童が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や児童の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、教師の協力的な指導など、指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること。

個に応じた指導には、「指導方法」と「指導体制」の二つの視点がある訳です。

それぞれの具体例について、小学校学習指導要領解説・総則編に示された内容をまとめると、次のようになります。

指導方法 = 個別指導、グループ指導（学習形態）
繰り返し指導、（興味・関心 or 理解の状況に応じた）課題に取り組む学習
教材教具の工夫や開発、コンピュータ等の教育機器の活用
指導の過程における形成的評価などの評価の工夫
指導体制 = ティーム・ティーチング、合同授業、交換授業

これを見てわかることは、「個に応じた指導方法」とは、教師一人でも可能な指導方法だということ。複数の教師がいなくても、少人数集団でなくとも可能な指導方法です。

つまり、「個に応じた指導方法」とは、普通の学級で、日常的に実践できる方法だということになります。

「個に応じた指導においても一斉指導が基本である」として、志水廣氏（愛知大学教授）は、次のように言います。＜『学校運営研究』（明治図書）2004.2月号＞

一斉指導で子どもをつかむことができない教師は、どんなに少人数でもうまくいかない。

由利出張所長も、研究主任研修会で、「いい授業を作るには、授業を通して研修するしかない。特に、授業の中核をなす指導技術のレベルの向上を図りたい」と強調されていました。